

目黒稲門会 EXPRESS

★★★★★2005年3月発行／第18号★★★★★

発行人：加藤榮護 編集長：藤岡長世 事務局：〒152-0002目黒区目黒本町6-21-14 TEL:03-5723-8156



2005年新年会、盛大に開催

去る1月10日、恵比寿ウェスティンホテルにおいて新年会を開催しました。

新春の講演は元・東京都副知事であり我が稲門会の初代会長であられた眞田勉氏に「東京の歩み・明治初期を中心に」と題し、目黒を中心とした江戸から東京にかけてのお話を伺いました。目黒の各所に残る地名の由来、繁華街の歴史など興味深い話題が次々と出て、皆、身近な話題のせいもあり非常に楽しく、さらにお聞きしたい思いを残しつつ感謝の拍手で終了いたしました。



続く、懇親会では美味しいご馳走に舌鼓をうちつつ、思い思いに歓談し、楽しい時を過ごしました。

そして締めは、やはり校歌斉唱。伏見会員のリードで皆肩を組み大きな声で本年最初の『都の西北』を熱唱しました。今年も、みなさん元気で楽しく活動してまいりましょう。



〈出席者〉

浅海敏之、阿部雅子(ご家族)、阿部喜久雄、荒瀬修一郎
有山勇次郎、石川智子、市瀬一江、市瀬達夫、伊藤源喜、伊藤徳男
伊藤 悠、岩崎正夫、海口昭治、大竹一子、大野幸子(ご家族)
大野利幸、大山高明、小野 満、加藤榮護、加藤玲子(ご家族)
岸 猛弘、木村昭一、紀本直幸、桑野祐光、郡山弘文、桜井輝隆
島田久家、関 和平、田島順一郎、千野逸平、土川俊雄、外岡 明
外岡ルリ子(ご家族)、中上美代子、中西千可子、難波秀哉
林田雅敏、樋口定広、土方正巳、藤岡長世、伏見和則、星野聡史
松岡雅俊、松戸 猛、眞田勉、水野弘文、村上 満、森家一三
保井 正、梁瀬陽太郎、八幡和三郎、八幡禎子(ご家族)
横山 大、吉田博行、渡邊三郎、渡邊道子(ご家族)、手塚仁雄



東京都23区支部大会、開催

2月16日(水)、リーガロイヤルホテル東京において東京都23区支部大会が開催されました。今回は中曽根元総理大臣に「静かな革命・日本の転換」のテーマで講演いただきました。ご高齢にもかかわらず張りのある声で日本のトップ経験者から見た小泉政治・日本の将来を語っていただきました。会場は白井総長はじめ、東京23区・3多摩各稲門会会員でぎっしり。熱気あふれる講演でした。

懇親会は、千代田稲門会所属の西脇さん率いるポニージャックスの校歌コーラスで開宴。珍しい白井総長の歌声も聞かれました。後半、各区稲門会ごとに壇上で記念撮影。校歌斉唱・エールののち散会しました。

〈出席者〉

加藤榮護、保井 正、外岡 明、伊藤源喜、大竹一子、
中上美代子、中西千可子、林田雅敏、樋口定広、大橋ヒデ子、
奥泉愛子、桑野祐光、水野弘文、針谷紀子、海沼美智子、
柴崎周弥、岩崎正夫、市瀬一江、井村正陽、岸 猛弘

会員の消息

新入会

千野逸平：昭和30年・商(目黒区中根・麻雀、ゴルフ)

訃報

中島勝也氏(理工学部名誉教授)平成17年3月2日・享年79才
謹んでご冥福をお祈りいたします。

・明治維新後、東京の首都建設計画構想

渋沢栄一・田口宇一の功績

・目黒元競馬場

日露戦争後日本軍の馬がコサック騎兵に比較して劣っている事を問題視
馬産地の強化を図るための資金つくりを目論み始める。

目黒、池上本門寺、京都、阪神等の各競馬場を開設

目黒競馬場は明治40年～昭和8年まで続く日本ダービーを開催後府中に移設。

・目黒駅 井上勝（鉄道省 局長）

北関東の物資を横浜港に運ぶ手段として品川と赤羽を結ぶルートを開設

品川→大崎→目黒不動→中目黒→渋谷→板橋→赤羽

五反田→目黒→（恵比寿）→渋谷→新宿→目白→

目黒不動 徳川家光により再興される。その後将軍家の厚い保護の下栄える
当時は500の伽藍がそびえていたと言われる。

家光と五色不動尊 目赤、目黄、目青、目白、目黒

・恵比寿ビールと目黒

神田上水・玉川上水・三田上水（用水）江戸の上水道

恵比寿ビールは三田上水を利用しようとしたとの説もある。ビールの原料及び
製品の運搬基地として恵比寿駅が出来る。当時目黒町財政の野半分は恵比寿ビ
ールの税金で賄っていた。会社から3人の社員が町に派遣され税金の使途をチ
ェックしていたといわれる。

・目黒・世田谷と馬

江戸は武士の町であった。武士と馬は切り離せない存在。江戸府中には馬場が
11箇所あったと言われている。現在地名で残っているのは「高田馬場」だけ
である。（馬喰町・小石川・京橋（畝傍が原）・本郷他）

馬場は江戸の人口が増えるに連れて大名屋敷等に変っていった。その馬を育て
る場所として目黒・世田谷の一带が発達して行った。

下馬（未訓練の馬の放牧場）・上馬（訓練済みの馬の放牧場）以下駒留・駒沢・
碑衾の地名が残る。

武蔵の国は馬の産地であった。絹（衣）・調布・紫草紫の染料の材料）茜草（朱
色の染料の材料）

・目黒の地名

馬の見張りに歩く道（畦道） 馬・・・駿馬（め） 畦・・・（くろ）とも読む
源頼朝の軍勢に目黒の〇〇と名乗る郷士（武士団）がいた。

目黒不動から取った。

・家光と鷹狩

家康・秀忠・家光は鷹狩を好んだ。（武士の意識の高揚を図る）

江戸時代の鷹狩場

品川・目黒・中野・小菅等 6 箇所（方面）在ったといわれる。

拳場（御拳場）・・・将軍が鷹を拳から解き放つ場所

5 里以内は鳥・獣や卵を獲ってはいけない名主の配下に見張り役を作る。

村が連合して治安の寄場を創る・・・惣（中目黒・台沢・品川等に置かれる）

江戸府内は町奉行が支配、府下は代官（大名の 5 万石に相当）が支配

目黒は代官の支配地域。世田谷は江戸末期は彦根藩の領地だった。

・明治 2 年地方参事制

慶応 4 年当時 300 の藩があった。

旧藩主は新知事に任命 石高は旧藩の 1 割

江戸府内は東京府、周辺は県となる。品川県・小菅県・浦和県等

・廃藩置県・・・明治政府の中央集権化

律令時代に戻す。国・郡・郷（国司・郡司・郷司）

薩摩・長州・土佐から参議を出す・藩兵を東京に集める

73 の府・県を新設（東京・大阪・京都は府）

県庁の所在地を設定（札幌・宮崎は後で設置）

各藩は反対して戦う戦力を持ってなくなっている。

戊辰戦争で疲弊と旧江戸時代の膨大な借金 200～300 億といわれる。

明治政府が返済の肩代わりをする。

コレラの大発生（明治 11・15・19 年）水道の近代化が図られる

河川管理の強化府と所轄の警察に責任を負わせる。

明治 26 年三多摩地区は神奈川県から東京府に編入される。

・東京の発展・・・渋沢栄一の構想

ベニスのような美しい街を東京にイメージ？

東京中央駅(東京駅)の設置・東京国際港の設立

その間を東京（日本）のビジネスセンターを目指す。

証券取引所・三井物産・東京海上・王子製紙等の誘致

陸軍省の市谷への移設。跡地を三菱へ 126 億で払下げ。

目黒稲門会新年会

「東京の歩み・明治初期の目黒を中心に」

講演 真仁田 元東京都副知事 より

ウエスティンホテル東京

平成 17 年 1 月 10 日